

平成15年12月期 第3四半期業績概況

平成15年9月26日

上場会社名 株式会社ミルボン

(コード番号: 4919 東証第一部)

(URL <http://www.milbon.co.jp>)

問合せ先 責任者役職名 常務取締役
氏名 木村 健一

(TEL: (06) 6928 - 2331)

1. 四半期損益計算書等の作成等に係る事項

財務諸表等の作成に際して準拠した基準 : (中間財務諸表等規則)

- ・ 会計処理方法の変更の有無 : 無
- ・ 中間決算等と異なる会計処理の有無 : 無
- 公認会計士又は監査法人による関与の有無 : 無

2. 平成15年12月期第3四半期の業績概況 (平成14年12月21日~平成15年9月20日)

(1) 経営成績 (単体) の進捗状況

	売上高		営業利益		経常利益		当期 (四半期) 純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
15年12月期第3四半期	10,653	(5.3)	2,315	(0.5)	2,346	(5.2)	1,245	(2.2)
14年12月期第3四半期	10,113	(8.0)	2,326	(22.7)	2,229	(26.3)	1,218	(51.8)
(参考) 14年12月期	13,638	(8.1)	3,000	(22.3)	2,900	(24.7)	1,512	(65.1)

	1株当たり当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	
	円	銭	円	銭
15年12月期第3四半期	119	20		
14年12月期第3四半期	128	20		
(参考) 14年12月期	159	19		

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年四半期比増減率を示す。

[経営成績 (単体) の進捗状況に関する定性的情報等]

当期における美容業界は、けん引役であったヘアカラーの成長が止まりましたが、代わりにヘアカラーで傷んだ髪に対応した業務用サロントリートメント市場が伸長したことで、業界全体としては横這いの状況が続きました。

このような状況のもと、当社といたしましては、2月に発売し好調に推移している、ニューシニアのカラー需要に対応したグレイカラー「プロマティス レフィナ (46色)」の窓口拡大を継続したことや、「プロマティス フレーブ」「プロマティス フレーブ アド」に追加色を3月に続き9月にも発売し、ファッションカラー (おしゃれ染め) の競争力を高めたことで、染毛剤部門を大幅に伸長することが出来ました。また、売上構成比の大きいヘアケア用剤部門に、業務用サロントリートメントの新製品「ディーセス リンケージ」を7月に発売し市場づくりを行いました。製品評価も高く、販売は好調に推移したため上半期の落込みを挽回し、ほぼ昨年並の実績となりました。その結果パーマ市場の減少を補って伸長することが出来ました。

当第3四半期迄の成績は売上高 106 億 53 百万円 (前期比 105.3%)、経常利益 23 億 46 百万円 (前期比 105.2%)、当第3四半期純利益 12 億 45 百万円 (前期比 102.2%) と増収・増益となりました。

部門別売上高は次のとおりであります。

部 門	売上高 (百万円)	前年同期比 (%)	構成比 (%)
染毛剤	4,253	129.8	39.9
ヘアケア用剤	4,354	98.5	40.9
パーマメントウエーブ用剤	1,730	87.2	16.2
その他	315	73.3	3.0
合 計	10,653	105.3	100.0

染毛剤部門

拡大を続けてきたファッションカラー（おしゃれ染め）の普及が一巡したことで、美容業界のヘアカラー市場は成長が止まり、成熟期を迎えています。そのような状況のもと、ファッションカラーの「プロマティス フレーブ」と「プロマティス フレーブ アド」に3月と9月に季節感を訴求した追加色を発売し、市場競争力を高めてまいりました。その結果ファッションカラー市場においても伸長することが出来ました。また2月に発売した「プロマティス レフィナ」によってグレイカラー（白髪染め）市場を獲得することに成功し、第3四半期迄で年間目標の2倍近くに達しております。その結果、染毛剤部門は、大幅に伸長することが出来ました。

ヘアケア用剤部門

ヘアカラーがデザインに定着したことで、髪の毛のダメージに対応する業務用サロントリートメント市場が注目されました。当社といたしましても、7月に「ディーセス リンケージ」を発売し窓口の拡大を行いました。従来の製品より効果が持続し、しかも短時間で出来ると、高い評価を頂いております。またヘアカラー専用のシャンプートリートメント「ディーセス」シリーズとスタイリング剤「ニゼル ラフュージョン」も好調に推移し、上半期の落込みを挽回してほぼ昨年並みの実績となりました。

パーマメントウエーブ用剤部門

デザイン力の高い一部のサロンでは増加傾向を示しておりますが、ウエーブパーマのニーズは明確でなく、パーマ市場全体としましては依然低迷しております。

このような状況のもと、当社はグレイ世代の為のパーマ剤「クリステージ」を9月に発売し、ハリ・コシがなくなってスタイルが決まらなくなったグレイヘアをつややかでエレガントに仕上げる、新しいパーマメニューとしてサロンへ提案いたしました。しかし、市場導入に時間がかかり当期には十分な成果に繋がりませんでした。また、アイロンを使ったストレート市場も横ばい傾向であり、その結果昨年実績を大きく下回りました。

(2)財政状態（単体）の変動状況

	総資産 百万円	株主資本 百万円	株主資本比率 %	1株当たり株主資本 円 銭
15年12月期第3四半期	12,532	8,937	71.3	855 37
14年12月期第3四半期	12,436	7,664	61.6	806 54
(参考)14年12月期	11,827	7,855	66.4	826 67

【キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
15年12月期第3四半期	1,143	362	791	197
14年12月期第3四半期	947	1,946	895	181
(参考)14年12月期	2,072	2,203	54	207

[財政状態（単体）の変動状況に関する定性的情報等]

当第3四半期における現金及び現金同等物（以下「キャッシュ」という。）は、業績順調により営業活動によるキャッシュの増加は1,143百万円となりました。有形固定資産の取得等により投資活動によるキャッシュの減少は362百万円となり、長期借入金の返済による支出及び配当金の支払い等により財務活動によるキャッシュの減少は791百万円となりました。この結果、キャッシュは前事業年度末より10百万円減少し、当第3四半期期末残高は197百万円（前年同期比8.8%増）となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは1,143百万円（前年同期比20.7%増）となりました。主なキャッシュの源泉は税引前四半期純利益2,197百万円と減価償却費394百万円であり、主なキャッシュの用途は法人税等の支払額1,229百万円であります。

投資活動によるキャッシュ・フローは362百万円（前年同期比81.4%減）となりました。主なキャッシュの用途は営業所（さいたま、神戸）の開設と広島営業所の移転等による有形固定資産取得に伴う支出438百万円であります。

財務活動によるキャッシュ・フローは791百万円となりました。主なキャッシュの用途は長期借入金の返済による支出418百万円と株主への配当金の支払額361百万円であります。

3. 平成15年12月期の業績予想（平成14年12月21日～平成15年12月20日）

	予想売上高	予想営業利益	予想経常利益	予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
通期	14,432	3,034	3,000	1,654

(参考) 通期の1株当たり予想当期純利益 158円22銭

[業績予想に関する定性的情報等]

美容業界を取り巻く環境は、引続き厳しい情勢が予想されます。

当社といたしましては、好調に推移しております「プロマティス レフィナ」の窓口拡大を推し進めることでヘアカラー市場を大きく伸長させ、業界No.1の地位を確固たるものとします。さらにヘアケア用剤部門では、サロントリートメントの「ディーセス リンケージ」の窓口拡大を図ることと、スタイリング剤の新製品「ニゼル ラフュージョン」の追加アイテムを10月に発売を予定しております。

また、今年配属した34名の新フィールドマンも戦力化してきており、今年度の目標は達成できると考えております。

[業績予想に関する留意事項]

本資料は、当社の評価を行うための参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承下さい。当資料に掲載されている予想数字あるいは将来に関する記述の部分は、資料作成時点の判断ですが、その内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。

以上

四半期財務諸表

(1) 第3四半期貸借対照表

(単位：千円)

四半期別 科目	当年第3四半期 (平成15年9月20日現在)		前年第3四半期 (平成14年9月20日現在)		前事業年度の 要約貸借対照表 (平成14年12月20日現在)	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
		%		%		%
(資産の部)						
流動資産						
1. 現金及び預金	227,897		211,345		237,981	
2. 受取手形	1,046,084		1,281,810		631,073	
3. 売掛金	1,380,361		1,293,868		1,452,568	
4. たな卸資産	1,379,244		1,363,146		1,249,613	
5. その他の 貸倒引当金	179,627 27,942		135,170 29,215		141,774 23,583	
流動資産合計	4,185,273	33.4	4,256,126	34.2	3,689,428	31.2
固定資産						
1. 有形固定資産						
(1) 建物	2,375,262		2,302,968		2,316,547	
(2) 機械及び装置	601,728		615,638		615,690	
(3) 土地	3,220,230		3,220,230		3,220,230	
(4) その他	327,925		244,062		297,568	
有形固定資産合計	6,525,146	52.1	6,382,899	51.4	6,450,036	54.6
2. 無形固定資産	128,900	1.0	140,367	1.1	133,882	1.1
3. 投資その他の資産						
(1) 投資有価証券	1,066,080		811,878		655,595	
(2) その他 貸倒引当金	649,615 22,096		871,152 25,917		913,454 14,468	
投資その他の資産合計	1,693,599	13.5	1,657,113	13.3	1,554,582	13.1
固定資産合計	8,347,647	66.6	8,180,380	65.8	8,138,501	68.8
資産合計	12,532,920	100.0	12,436,506	100.0	11,827,930	100.0

(単位：千円)

四半期別 科目	当年第3四半期 (平成15年9月20日現在)		前年第3四半期 (平成14年9月20日現在)		前事業年度の 要約貸借対照表 (平成14年12月20日現在)	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
		%		%		%
(負債の部)						
流動負債						
1. 支払手形	1,054,628		990,065		987,461	
2. 買掛金	481,259		489,448		350,033	
3. 短期借入金	—		700,000		—	
4. 1年以内返済予定の長期借入金	464,400		558,000		558,000	
5. 未払金	542,880		556,746		646,606	
6. 未払法人税等	376,301		356,890		631,533	
7. 返品調整引当金	24,502		25,240		24,502	
8. 賞与引当金	179,370		173,040		38,430	
9. その他	151,668		148,725		104,519	
流動負債合計	3,275,011	26.1	3,998,155	32.2	3,341,087	28.3
固定負債						
1. 長期借入金	125,200		589,600		450,100	
2. 退職給付引当金	98,518		83,915		81,495	
3. 預り保証金	97,114		100,384		99,885	
固定負債合計	320,833	2.6	773,899	6.2	631,480	5.3
負債合計	3,595,844	28.7	4,772,055	38.4	3,972,567	33.6
(資本の部)						
資本金	—	—	1,150,000	9.2	1,150,000	9.7
資本準備金	—	—	1,049,120	8.4	1,049,120	8.9
利益準備金	—	—	150,000	1.2	150,000	1.3
その他の剰余金						
1. 任意積立金	—	—	3,549,639		3,549,639	
2. 四半期(当期)未処分利益	—	—	1,722,326		2,016,767	
その他の剰余金合計	—	—	5,271,966	42.4	5,566,406	47.0
その他有価証券評価差額金	—	—	44,908	0.4	57,242	0.5
自己株式	—	—	1,544	0.0	2,922	0.0
資本合計	—	—	7,664,450	61.6	7,855,362	66.4
資本金	1,150,000	9.2	—	—	—	—
1. 資本準備金	1,049,120		—	—	—	—
資本剰余金合計	1,049,120	8.3	—	—	—	—
利益剰余金						
1. 利益準備金	150,000		—	—	—	—
2. 任意積立金	3,544,000		—	—	—	—
3. 四半期末処分利益	2,859,203		—	—	—	—
利益剰余金合計	6,553,204	52.3	—	—	—	—
その他有価証券評価差額金	199,294	1.6	—	—	—	—
自己株式	14,542	0.1	—	—	—	—
資本合計	8,937,075	71.3	—	—	—	—
負債及び資本合計	12,532,920	100.0	12,436,506	100.0	11,827,930	100.0

(2) 第3四半期損益計算書

(単位：千円)

四半期別 科目	当年第3四半期 〔自平成15年 6月21日 至平成15年 9月20日〕		前年第3四半期 〔自平成14年 6月21日 至平成14年 9月20日〕		前事業年度の 要約損益計算書 〔自平成13年12月21日 至平成14年12月20日〕	
	金額	百分比	金額	百分比	金額	百分比
		%		%		%
売上高	3,867,469	100.0	3,652,790	100.0	13,638,473	100.0
売上原価	1,408,724	36.5	1,306,818	35.8	5,137,321	37.7
売上総利益	2,458,744	63.5	2,345,971	64.2	8,501,151	62.3
販売費及び一般管理費	1,532,136	39.6	1,399,486	38.3	5,500,783	40.3
営業利益	926,608	23.9	946,485	25.9	3,000,367	22.0
営業外収益	34,505	0.9	43,451	1.2	114,482	0.8
営業外費用	81,006	2.1	68,177	1.9	214,485	1.5
経常利益	880,108	22.7	921,759	25.2	2,900,365	21.3
特別利益	736	—	1,266	0.0	7,010	0.1
特別損失	4,974	0.1	82,801	2.2	239,395	1.8
税引前四半期(当期)純利益	874,397	22.6	840,224	23.0	2,667,980	19.6
法人税、住民税及び事業税	331,500	8.6	306,000	8.4	1,133,000	8.3
法人税等調整額	33,312	0.8	37,190	1.0	22,202	0.2
四半期(当期)純利益	509,585	13.2	497,033	13.6	1,512,777	11.1

累計損益計算書

(単位：千円)

四半期別 科目	当年第3四半期累計 〔自平成14年12月21日 至平成15年 9月20日〕		前年第3四半期累計 〔自平成13年12月21日 至平成14年 9月20日〕		前事業年度の 要約損益計算書 〔自平成13年12月21日 至平成14年12月20日〕	
	金額	百分比	金額	百分比	金額	百分比
		%		%		%
売上高	10,653,155	100.0	10,113,861	100.0	13,638,473	100.0
売上原価	3,862,931	36.3	3,781,219	37.4	5,137,321	37.7
売上総利益	6,790,223	63.7	6,332,641	62.6	8,501,151	62.3
販売費及び一般管理費	4,474,861	42.0	4,005,785	39.6	5,500,783	40.3
営業利益	2,315,362	21.7	2,326,855	23.0	3,000,367	22.0
営業外収益	231,110	2.2	73,874	0.7	114,482	0.8
営業外費用	199,947	1.9	170,913	1.7	214,485	1.5
経常利益	2,346,525	22.0	2,229,816	22.0	2,900,365	21.3
特別利益	—	—	3,596	0.0	7,010	0.1
特別損失	148,564	1.4	111,707	1.1	239,395	1.8
税引前四半期(当期)純利益	2,197,960	20.6	2,121,704	20.9	2,667,980	19.6
法人税、住民税及び事業税	930,000	8.7	854,000	8.4	1,133,000	8.3
法人税等調整額	22,389	0.2	49,367	0.5	22,202	0.2
四半期(当期)純利益	1,245,571	11.7	1,218,337	12.0	1,512,777	11.1
前期繰越利益	1,613,631		503,989		503,989	
四半期(当期)未処分純利益	2,859,203		1,722,326		2,016,767	

四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項

	当年第3四半期 〔自 平成14年12月21日〕 〔至 平成15年 9月20日〕	前年第3四半期 〔自 平成13年12月21日〕 〔至 平成14年 9月20日〕	前事業年度 〔自 平成13年12月21日〕 〔至 平成14年12月20日〕
1. 事業年度の財務諸表のために採用している会計処理の原則及び手続と異なる会計処理の基準	<p>(1) 法人税、住民税及び事業税の計上基準 税引前四半期純利益を基礎として算定される当四半期会計期間の負担すべき税額を計上しております。</p> <p>(2) 利息の計算 受取利息、支払利息等は金額が僅少の為現金主義により計上しております。</p> <p>(3) たな卸資産 当四半期末には実地棚卸を行っており、帳簿金額を計上しております。</p>	<p>(1) 法人税、住民税及び事業税の計上基準 同左</p> <p>(2) 利息の計算 同左</p> <p>(3) たな卸資産 同左</p>	<p>——</p> <p>——</p> <p>——</p>
2. 資産の評価基準及び評価方法	<p>(1) 有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 第3四半期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部資本直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） 時価のないもの 移動平均法に基づく原価法</p> <p>(2) たな卸資産 商 品 先入先出法に基づく原価法 製品・仕掛品 総平均法に基づく原価法 原 材 料 総平均法に基づく原価法 貯 蔵 品 最終仕入原価法に基づく原価法</p>	<p>(1) 有価証券 同左</p> <p>(2) たな卸資産 同左</p>	<p>(1) 有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部資本直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） 時価のないもの 移動平均法に基づく原価法</p> <p>(2) たな卸資産 同左</p>
3. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産 定率法 なお、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）についても定率法によっております。</p> <p>(2) 無形固定資産 定額法 自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法</p>	<p>(1) 有形固定資産 同左</p> <p>(2) 無形固定資産 同左</p>	<p>(1) 有形固定資産 同左</p> <p>(2) 無形固定資産 同左</p>

	当年第3四半期 〔自 平成14年12月21日〕 〔至 平成15年 9月20日〕	前年第3四半期 〔自 平成13年12月21日〕 〔至 平成14年 9月20日〕	前事業年度 〔自 平成13年12月21日〕 〔至 平成14年12月20日〕
4. 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員賞与（使用人兼務役員の使用人分を含む）の支給に充てるため、支給見込額に基づく金額を計上しております。</p> <p>(3) 返品調整引当金 商品及び製品の返品による損失に備えるため、過去の返品率等を勘案し、将来の返品に伴う損失予想額を計上しております。</p> <p>(4) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当第3四半期末において発生していると認められる額を計上しております。 数理計算上の差異は、発生年度の翌期から、従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）にわたる定額法により費用処理することとしております。</p>	<p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3) 返品調整引当金 同左</p> <p>(4) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当第3四半期末において発生していると認められる額を計上しております。</p>	<p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3) 返品調整引当金 同左</p> <p>(4) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 数理計算上の差異は、発生年度の翌期から、従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）にわたる定額法により費用処理することとしております。 （会計処理の変更） 退職給付会計に係る数理計算上の差異は、従来、発生した年度で一括費用処理する方法によっておりましたが、当期より、発生年度の翌期から、従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）にわたる定額法により費用処理する方法に変更しております。 この変更は、数理計算上の差異は、予測と実績の乖離のみならず予測数値の修正も反映されることから、これを発生時に一括処理すると期間損益を著しくゆがめることとなるため、より合理的な営業損益を表示するために行ったものであります。</p>

	当年第3四半期 〔自 平成14年12月21日〕 〔至 平成15年 9月20日〕	前年第3四半期 〔自 平成13年12月21日〕 〔至 平成14年 9月20日〕	前事業年度 〔自 平成13年12月21日〕 〔至 平成14年12月20日〕
			また、発生年度の翌期から費用処理することとしたのは、年金数理計算事務と決算事務が重複する現状を勘案し、事務処理の迅速化・正確化を図ると共に開示の適時性を向上させることを目的としたものであります。 なお、この変更により、従来と同一の方法によった場合と比べ、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益はそれぞれ160,482千円増加しております。
5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準	外貨建金銭債権債務は、第3四半期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。	同左	外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
6. リース取引の処理方法	リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。	同左	同左
7. 四半期キャッシュ・フロー計算書（キャッシュ・フロー計算書）における資金の範囲	四半期キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。	同左	キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。
8. その他四半期財務諸表（財務諸表）作成のための基本となる重要な事項	（1）消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。 なお、仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、流動負債の「その他」に含めて表示しております。 （2）当年第3四半期に係る納付税額及び法人税等調整額は、当期において予定している利益処分による特別償却準備金の取崩しを前提として、当年第3四半期に係る金額を計算しております。	（1）消費税等の会計処理 同左 （2） 同左	（1）消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。 （2） _____

追加情報

<p>当年第3四半期 〔 自 平成14年12月21日 至 平成15年 9月20日 〕</p>	<p>前年第3四半期 〔 自 平成13年12月21日 至 平成14年 9月20日 〕</p>	<p>前事業年度 〔 自 平成13年12月21日 至 平成14年12月20日 〕</p>
<p>1. 当期から、「自己株式及び法定準備金の取崩等に関する会計基準」(企業会計基準第1号)を適用しています。これによる当年第3四半期の損益に与える影響はありません。 なお、中間財務諸表等規則の改正により、当年第3四半期における貸借対照表の資本の部は、改正後の中間財務諸表等規則により作成しています。</p>	<p>————</p>	<p>————</p>
<p>2. 税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正 地方税法等の一部を改正する法律(平成15年法律第9号)が平成15年3月31日に公布されたことに伴い、当年第3四半期の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成16年12月21日以降解消が見込まれるものに限る)に使用する法定実効税率を、前事業年度の41.5%から40.2%に変更いたしました。 その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が4,098千円減少し、その他有価証券評価差額金(貸方)が4,332千円増加しております。また、当年第3四半期に計上された法人税等調整額(借方)が8,430千円増加しております。</p>	<p>————</p>	<p>————</p>
<p>————</p>	<p>3. 自己株式の表示 前年第3四半期まで資産の部に計上しておりました自己株式(前年第3四半期残高流動資産104千円)は、中間財務諸表等規則の改正により当年第3四半期から資本の部の末尾に表示しております。</p>	<p>————</p>